

パラグアイ情勢 (2025年11月)

【国内政治】

- ムヒカ・エステ市長の当選

9日、エステ市臨時市長選の投開票が行われ、プリエト前市長派の「東部民主主義意識運動(CDE)」のムヒカ候補が当選した。同臨時市長選は、プリエト前市長の罷免を受けて行われ、ムヒカ候補が約69%の得票率、コロラド党のゴンサレス・バエスケン候補は約29%の得票率であった旨発表された。

- 2026年統一地方選の公示

10日、最高選挙裁判所は、2026年統一市長・市議会議員選挙を公示した。全国263都市で、2026～2031年を任期とする市長・市議会議員を選出するものであり、6月7日に予備選(党内選挙)、10月4日に本選、11月3日に、新市長・市議会議員就任が行われることが決まった。

- シルビオ・ペティロッシ国際空港の新搭乗ターミナル完成

21日、シルビオ・ペティロッシ国際空港の新搭乗ターミナルの完成式が行われ、ペニャ大統領出席の下、新機材を整備した2,500平方メートルの搭乗ターミナルがお披露目された。ペニャ大統領は、同ターミナル運用開始によるより快適で迅速な出入国を強調した。

- パラグアイへの永住許可申請増加

21日、国家移民局は、パラグアイの永住許可申請数が84%増加した旨を発表した。これに関連し、ヒメネス商工大臣は、同国におけるビジネスチャンスの増大が外国人居住者の増加につながっていると、投資呼び込みを行ってきたペニャ政権の成果を強調した。

【対外関係】

- モナコ公国アルベール2世のパラグアイ訪問

3～5日、モナコ公国のアルベール2世がパラグアイを訪問。アルベール2世はCOP30出席のためブラジルを訪問する前にパラグアイに立ち寄り、3日、ペニャ大統領と会談し、翌4日にはパラグアイ・モナコ・ビジネスフォーラムを開催した。

- ラトレ下院議長を訪米

6日、ラトレ下院議長は、トランプ米大統領の招待を受け、同大統領の私邸マール・アラゴで行われ、各国の政府関係者、実業家らが招待された会合に出席した。報道によると、ラトレ下院議長は、パラグアイの原則と価値を守る姿勢を強調し、投資機会をアピールした

と伝えられた。

- ペニャ大統領のカタール訪問

4～6日、ペニャ大統領は、カタールで行われた第2回世界社会開発サミットに出席した。大統領は演説を行い、パラグアイの持続的成長を強調し、貧困の減少、雇用創出、社会保障拡充といった成果を強調した。また、国家開発計画2050についても説明し、SDGsに係るパラグアイのコミットメントについてアピールした。

- ペニャ大統領、ボリビア大統領就任式出席

8日、ペニャ大統領は、ロドリゴ・パス・ボリビア大統領就任式に出席した。両者は、インフラ、エネルギー、貿易に焦点を当てた二国間協力の強化、両国の経済・地域協力の強化の必要性について一致した。

- ペニャ大統領、台湾立法院副院長と会合

19日、ペニャ大統領は、パラグアイを訪問中のジョニー・チャン台湾立法院副院長以下、議員団と会合を行い、良好な二国間関係を強調し、両国の戦略的同盟をさらに深める意欲を表明した。

- パラグアイ・イスラエル外相会談

24日、ラミレス外相は、パラグアイ訪問中のギデオン・サール・イスラエル外相と会談し、両国の強固な関係を確認し、イスラエルの主権と安全への強い支持を表明した。同機会に、二国間の安全保障、越境組織犯罪対策、テロ対策に係る協力覚書が署名された旨報じられた。